

複数の事業者・組織が協働して緑化に取り組むことで、付加価値の高い商品を製造・販売、コスト低減を図ります。

ホップから
地ビール

蔓から
リース

緑化は、単独の事業者や組織で実施することが多く、設置後も継続的にかかる維持管理コストが負担になりがちです。

K-Cowork緑化®は複数の事業者や組織が協働して取り組むこと、そこで収穫できたものを使って付加価値の高い商品を製造・販売することによって維持管理にかかるコストを低減します。

また、複数の事業者や組織の関わりの中で創り出された商品を販売することで、購入者を含む幅広い層が緑化活動に関わることができ、地域の様々なステークホルダー（事業者や組織）をつなぐ効果もあります。

K-Cowork緑化®では、主に蔓性植物である「ホップ」を活用しています。

近年、小規模醸造所が増え、比較的容易に地ビールを作ることができます。

醸造所との連携により、地域の様々なステークホルダーによって育てられたホップから毬花を収穫し、その毬花を香りづけに使った地ビールを製造・販売します。その売り上げの一部を翌年の栽培キットの準備や維持管理に回すことで、コストを削減し、持続的に実施できる緑化となります。



地域の様々な場所でホップを栽培



K-Cowork緑化®循環のイメージ



地ビールの生産や、リースなどの商品として販売

導入事例

- 東京都狛江市 狛江CSAで実施
- 埼玉県朝霞市